

裏面白紙

立案 昭和 年月 日
決裁 昭和 年月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮事務官

故從三位塚本清治位階追陞ノ件

宮内省

昭和五年八月四日
宣稱記入三月十四日官報
昭和五年八月六日



故從三位塚本清治位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年八月四日

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎



内

閣

人閣後第一九八號

案起

昭和二十年八月二日

裁可

昭和二十年八月四日

施行

昭和

年

月

日

日

内閣總理大臣



内閣書記官長

内閣書記官



故從三位塚本清治ハ別紙功績調書ノ通功績顯著ナル者ニ候處客月十一日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通一位階追陞ノ件上奏相成然ルヘシ

故從三位塚本清治

内

閣

特ヒ日ヲ以テ一位一級追陞セラル

從三位塚本清治

敘正三位

七月十一日付

功績調書

故貴族院議員從三位塚本清治

右者明治三十五年七月、東京府屬ニ
任官シ以來數官ヲ經テ、大正四年七月
内務省監察官ニ勅任セラレ、爾來相
踵イデ、内務省神社局長兼造神官副
使、内務省地方局長、社會局長官、
内務次官、法制局長官、内閣書記官長、
關東長官等、要職ニ歷任シ、昭和七年

内閣

一月願ニ依リ關東長官ヲ免セラレル迄、
官務ヲ奉スルコト前後ヲ通シ二十五年余、
國家樞要、職務ニ携リ、常ニ全幅ノ努
力ヲ拂ヒ邦家、爲ニ寄與シタル所大ナル
モノアリ。殊ニ内務部内ニ奉職スルコト二十
有一年ニ及ビ、地方行政、社會行政ノ整
備改善、神社制度ノ確立ニ力ヲ致シ、
次イデ大正十三年六月法制局長官ニ、
同年八月内閣書記官長ニ轉任シ、
克ク内閣總理大臣ヲ輔佐シテ、行財

政並ニ税制ノ整理運營、關稅率ノ一般改正、衆議院議員選舉法等ノ改正ニ努力シ、超エテ昭和六年一月關東長官ニ親任セラレ、部下職員ヲ統率シテ機宜ノ處置ヲ行ハス能ク其ノ重責ヲ完フシタリ。他面、大正十五年一月貴族院議員ニ勅任セラレ、議政ノ府ニ列スルコト十九年余ニ及ビ、其ノ間幾多重要ナル法案及豫算案ノ審議協賛ノ任ヲ果シタルハ固ヨリ、多年同成會ノ幹部トシテ、國政ノ圓滿ナル運

内閣

營ニ寄與セル等、憲政ノ發達ニ盡瘁シ、或ハ神社制度調査會委員仰付ラレ、又ハ大日本神祇會理事ニ就任シテ、祭祀ノ振興、戰時國民精神ノ作興ニ竭シタル等、同人ハ終始一貫邦家ノ爲ニ貢獻シタル功績定ニ顯著ナリトス。

昭和二十年七月十九日

内務大臣 安倍

源



内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿

故從三位 塚 本 清 治

右者資性溫厚篤實ニシテ黽勉力行已ヲ處スルコト謹嚴直實ナリ、
學ヲ東京帝國大學法科大學法律科ニ修メ直ニ官界ニ入り精勵恪勤
在官前後二十五年ノ長キニ及ブ此ノ間内務省部内各種要職ニ在リ

内 務 省

テ克ク其ノ本分ヲ盡シテ誤ラズ累進シテ大正四年七月内務監査官
ニ勅任セラル、爾來相踵イデ内務省神社局長、造神宮副使、内務
省地方局長、社會局長官、内務次官、法制局長官、内閣書記官長
關東長官等國家須要ノ職務ニ携リ其ノ職分ノ重要性ニ鑑ミ常ニ全
幅ノ努力ヲ拂ヒ神社制度ノ確立、行財政並ニ税制ノ整理運營、關
税率ノ一般改正、衆議院選舉法ノ改正等ニ關シ、其ノ全能ヲ發揮
シテ之ガ健全ナル執行ニ努メシモノニシテ其ノ功績ニ付イテハ特
筆スベキモノアリ、是ヨリ先大正十五年一月貴族院議員ニ勅選セ
ラレ議政ノ府ニ列シ克ク協贊ノ誠ヲ示シ同院ニ於ケル一勢力トシ
テ頭角ヲ現シ在任今日ニ至ル迄十九年餘其ノ本分ヲ盡シテ餘リア

207.18

ルモノアリ昭和七年一月願ニ依リ關東長官ヲ免ゼラレテヨリモ克
ク時局ヲ洞察シ貴族院議員タル傍ラ各會委員トシテ公務ニ參畫シ
蔭ニ陽ニ國政國策ノ樹立運用ニ、或ハ民意ノ昂揚ニ念慮ヲ注ギ居
リタルモノニシテ其ノ功勞ニ關シテモ亦見ルベキモノアリタリ、
如斯終生ヲ公共ニ盡シ常ニ邦家ノ進展ニ獻身的努力ヲ拂ヒ居リタ
ルモノニシテ其ノ功勞洵ニ多大ナルモノ有之候處本月十一日病ヲ
得薨去致候ニ付イテハ同人生前ノ功勞ニ對シ位階追陞ノ恩典ニ浴
セシメラレ候様御詮議相成度此段及稟申候也

内務省

功績書

塚本清治

第一 神社制度ニ関スル功績

同人ハ昭和四年十月十日神社制度調査會官制公布ト同時ニ同會委員ヲ任命セラレ内務省ヨリ同會ニ對シ官國幣社以下神社ノ維持經營ヲ確實ニスル方策如何トノ諮問アルヤ之ガ調査審議ノ為選ハレテ特別委員トナリ審議ヲ重ナルト實ニ總會ニ因特別委員會ハ十二回ニ及ヒ其ノ間能ク從來ノ經驗ト甚甚田トヲ傾ケテ鋭意其ノ責ニ盡シ同委員意見ハ常ニ大ニ重ヲ為シタリ即チ神社制度中重要事項ニ属スル左ノ事項ノ實現ヲ見ルニ至リタルハ同委員盡力ニ負フ所頗ルタタク在任

神祇院

實ニ十五年其ノ功績誠ニ顯著ナルモアリ即チ一官國幣社國庫供進金ノ増額並臨時神社費ノ増額

右ハ官國幣社ノ維持經營ヲ確實ニスル為之カ制度ノ充實ヲ重要ナリト認メ特別委員會六回總會一週ヲ開キテ審議答申シ之ニ其ニ國庫供進金ヲ昭和十二年度ヨリ百萬圓(從前七十五萬圓)ニ増額スルト共ニ官國幣社ノ修築ニ關シテハ臨時神社費ヲ増額シテ遺憾ナキヲ期スルコトナレリ

二府縣社以下神社ニ對スル公費ノ供進府縣社以下神社ノ維持經營ヲ確實ニスル為府縣及ビ市町村等ノ地方公共團體ヨリ公費ヲ供進スルヲ適當ト認メ特別委員會三十八

四 國總會三回ヲ開キ審議ノ結果從前寄附又ハ補助ノ名目ニテ少額ニ止リシヲ更メテ相當額ノ公費ヲ供進スルノ制度ヲ樹立スルニ決定答申之ニ基キ制度ノ成立ヲ見ルニ至レリ

三 護國神社制度ノ整備

從前ノ招魂社ニ関スル制度ハ頗ル不備ニシテ支障少カラズ即チ特別委員會四回總會ニ回ヲ開キ審議ノ結果之カ名稱ヲ護國神社ト改メ制度ヲ改善整備スルニ決定答申之ニ基キ昭和十四年關係法令ヲ整備シコ、ニ護國神社制度ノ確立ヲ見タリ

四 神職ノ待遇改善

神職ノ制度ニ付テハ不備ノ點カサレヨリ神職ノ任用、教養、制度及ビ待遇問題ノ

神 祇 院

改善等ニ関シ特別委員會十一回總會ニ回ヲ重ネ審議答申之ニ基キ皇典講究所ニ對スル國庫補助、神宮皇學館ヲ大學子ニ昇格、官國敎育社神職ニ對シ官等配當府縣社以下神社神職ノ奏任待遇増進等ノ實施ヲ見出其他ノ點ニ付テモ逐次改善セラレトシツ、アリ

五 神祇ニ関スル特別官制ノ設置

祭祀ノ本義ヲ明カニスルニ於テ神祇ニ関スル制度ノ現状遺憾ノ莫少カラザルニヨリ之ニ関スル行政機關ヲ改善スルト共ニ祭祀ノ根本ニ關スル方途ヲ審議シ特別委員會七回總會ニ回ヲ開キ答申之ニ基キ昭和十五年十月神社局ヲ神祇院ニ改組セラル、ニ至リ尙祭祀ノ

本義講明ニ付キ鋭意考究ヲ進メツアリ

第二

大日本神祇會ハ惟神ノ大道ニ則リ敬神崇祖ノ
本義ヲ闡明シ國民精神ノ振作昂揚ヲ圖ルヲ
以テ目的トシ國內ハ固ヨリ滿州國中華民國其他
ニ在ル一万余年有餘ノ全神職並ニ凡十一万ノ神社
ニ属スル氏子崇敬者惣代又ハ篤志者并神祇
関係者ヲ網羅組織セル神祇院ノ外部ハ團體
ニシテ各都道府縣及樺太關東州南洋ニハ
支部ヲ朝鮮臺灣ニハ本部ヲ設置シ概ネ
當該長官ヲ支部長ニ委嘱シ又各支部ニ
ハ郡市ヲ單位トスル都會ヲ下部組織トシ
其ノ目的遂行ニ鋭意盡力シツアルト同時ニ福
岡市ニ西部神祇學校名古屋市ニ中部神

神祇院

祇學校ヲ經營優柔ナル地方神職ノ養成ニ努
カシツアリ

而シテ中央本部ノ機構トシテハ現在水野鍊太郎
ヲ會長トシ神祇院副總裁飯沼一省官幣大社
日枝神社宮司秋岡保治ノ兩名ヲ副會長トシ
衆議會議員守屋菊夫 明石昭夫 等七名
ノ理事ヲ以テ構成ス處務機構ニ於テハ之ヲ總
務、教導、調査ノ三部ニ課ニカテリ
同人ハ昭和十六年七月十四日本會理事ニ就任調査
部長ヲ委嘱セラレ爾來四年有餘常ニ部員
ヲ督勵專ラ神祇ニ関スル制度及神社ヲ中心ト
スル國民生活ノ振興策并調査研究ヲ重ニ察
祀ノ振興、戰時國民精神ノ作興ニ寄與貢
獻スル處多大ニシテ其ノ功績顯著ナルモノヤリ

参考

神祇制度調査委員

委員長大日本神祇會調査部長

委員國學院大學教授

文庫

塚本清治

植木直一郎

大串逸代夫

大倉邦彦

大塚常紀

香取茂也

金原利道

河野省三

阪本廣太郎

佐伯有義

宮地直一

(以下省略)

リ

東京帝國大學教授

フ

國學院大學教授

ク

神祇院考証官

ク

國學院大學教授

ク

官報中社多賀神社宮司

ク

大日本神祇會東京都支部

ク

神祇院書記官

リ

大倉精神文化研究所長

ク

國民精神文化研究所員

神祇院

内閣府第一九八

貴族院第二〇五號

昭和二十年七月十四日

貴族院書記官長 小林 次郎

内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

上 申

貴族院議員從三位勳一等 塚 本 清 治

右者本月十一日薨去致候ニ付テハ此際特ニ位勳陞敘ノ恩典ニ浴
セシメラルル様御詮議相成度別紙覆書並功績書相添此段上申
候也

追而内務省ヨリモ別ニ上申有之筈ニ付爲念申添候

貴族院

裏面白紙

130

20

功 績 書

貴族院議員從三位勳一等 塚 本 清 治

右者本月十一日薨去セル處同議員ハ別紙履歷書記載ノ通明治卅五年七月東京帝國大學法科大學法律學科ヲ卒業シ爾來福井縣、神奈川縣、滋賀縣、內務省等ノ參事官、事務官或ハ監察官、滋賀、神奈川各縣及京都府等ノ警察部長或ハ內務部長、內務大臣秘書官、內務省神祇局長、同地方局長、明治神宮造營局長、社會局長官等ニ任補セラレ尋イデ內務次官、法制局長官、內閣書記官長等ニ歷任ノ後昭和六年關東長官ニ親任セラレタル等多年我國内外地施政ニ盡瘁アリタリ。

他面明治四十三年十二月中央衛生會委員ヲ仰付ケラレテヨリ明治神宮造營局評議委員、同參與、古社寺保存會委員、史蹟名勝天然記念物調查會委員、道路會議議員、臨時財政經濟調查會幹事、東

貴 族 院

京市道路評議會評議員、港灣調查會委員、都市計畫中央委員會委員、社會事業調查會委員、臨時治水調查會委員、保健衛生調查會委員、米穀委員會委員、臨時教育行政調查會委員、馬政委員會委員、勞働保健調查會委員、小作制度調查會委員、帝都復興審議會幹事、臨時法制審議會委員、同幹事、臨時大都市制度調查會委員、神社調查會委員、帝都復興院參與、臨時條約改正調查委員會委員、國有財產調查會委員、文官高等懲戒委員、臨時震災救護事務局參與、鐵道會議議員、帝國經濟會議議員、帝室制度審議會委員、特別都市計畫委員會委員、簡易生命保險積立金運用委員會委員、中央統計委員會委員、文政審議會委員、行政調查會幹事長、同委員、日本無線電信株式會社設立委員、對支文化事業調查會委員、中央諸官衙建築準備委員會委員、社會政策審議會委員、失業防止委員會委員、神社制度調查會委員、法制審議會臨時委員、土木會議議

員、宗教制度調査會委員、議院制度調査會委員、神宮關係施設調査會委員、議會制度審議會委員、國家總動員審議會委員等ヲ仰付ケラレ殊ニ大正五年十二月以來屢々内務省所管事務其他ノ政府委員ヲ仰付ケラレタル等明治、大正、昭和三朝ニ亘リ時艱ニ應ジ或ハ國力進展ノ爲設置セラレタル各種審議會或ハ調査會ニ參畫シ緊要適切ナル國策確立ノ爲獻身努力セル功勞眞ニ渺ナカラザルモノアリタリ。

大正十五年一月貴族院議員ニ勅任セラレテヨリ今日ニ至ルマデ約二十年間ノ永キニ亘リ在職シ其間各帝國議會ニ於テ豫算、資格審査、懲罰等ノ常任委員竝地租條例廢止法律案外十六件、勞働者災害扶助法案、市制中改正法律案外二件、不動産融資及損失補償法案外一件、恩給法中改正法律案、出版法中改正法律案外二件、衆議院議員選舉法中改正法律案外一件、議院法中改正法律案、臨時地

貴族院

方財政補整金法案、米穀自治管理法案外二件、不穩文書等取締法案、軍機保護法改正法律案外一件、特許法中改正法律案外三件、兵役法中改正法律案、國家總動員法案、北支那開發株式會社法案外一件、宗教團體法案外一件、米穀配給統制法案、昭和十五年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外十九件、國家總動員法中改正法律案外一件、産業設備營團法案、南方開發金庫法案外四件、戰時行政特例法案外二件等各重要ナル法律案ノ特別委員ニ舉ゲラレ豊富ナル經驗ト識見トヲ傾ケテ慎重審議協賛ノ任ヲ竭セルノミナラズ今次戰爭開始以來ハ每議會ニ提出セラレタル關係法律案竝豫算案成立ノ爲銳意盡力アリタリ尙又多年會派同成會ノ幹部トシテ部内ノ統制融和ヲ圖ルト共ニ他會派トノ交渉連絡ニ當リ以テ國政ノ圓滿ナル運営ニ寄與セル等其功績寔ニ顯著ナルヲ確認ス。

位勳爵	博士	府縣族籍	生年月日	原籍	現住所	年號月日	任免賞罰事故	官衙
			明治五年十一月五日	兵庫縣揖保郡御津村、内朝臣村三十二番地				
			明治五年七月十日	東京帝國大學法科大學法律科卒業				東京府
			七月二十日	任東京府属				
				給五級俸				
				内務部才二課兼才一課勤務ヲ命ス				
			十月	文官高等試験合格				
			其年六月二十日	任内務属				内務省
				給五級俸				
				土木局勤務ヲ命ス				
			十二月五日	任福井縣参事官				内閣
				叙高等官七等				
			其年三月二日	任神奈川縣参事官				
				叙高等官七等				
			四月十九日	任神奈川縣事務官				
				叙高等官七等				
				補第二部長				内務省
			三月十五日	陞叙高等官六等				内閣
			其年三月二十日	叙正七位				宮内省
			四月一日	叙勲六等授單光旭日章賜金貳百六十圓其年				宮内省
			七月十五日	任滋賀縣事務官				内閣
				叙高等官六等				
				補等四部長				内務省
			四年七月十三日	補警察部長				

日本標準規格 B4

四年十二月二十日	任神奈川縣事務官	内閣
	叙高等官六等	内務省
	補警察部長	内務省
四年一月二十日	陞叙高等官五等	内閣
三月三十日	任内務省参事官	
	叙高等官五等	
	神社局兼衛生局勤務ヲ命ス	内務省
	衛生局保健課長兼医務課長ヲ命ス	
七月十七日	叙從六位	官内省
	兼任内務大臣秘書官	内閣
四年三月十八日	叙高等官五等	
	陞叙高等官四等 本官	
五月三十日	叙正六位	官内省
十月十八日	陞叙高等官四等 兼官	内閣
履 歴 用 紙		
内 務 省		
四年四月十三日	衛生局医務課長ヲ免ス	内務省
五月一日	衛生局保健課長ヲ免ス	
六月廿八日	叙勲五等授瑞寶章	賞勲局
四年七月三日	陞叙高等官三等	内閣
大正元年九月三十日	叙從五位	官内省
二年六月十三日	任京都府内務部長	内閣
	叙高等官三等	
二年三月二十日	大禮事務官被仰付	大禮使
三年四月十一日	大禮使官制廢止ニ付大禮使事務官被仰付	
四年四月十日	大禮使事務官被仰付	
七月一日	任内務監察官	内閣
	叙高等官二等	
八月二十日	叙正五位	官内省
八月二十日	叙勲四等授瑞寶章	賞勲局

有四月	任内務省神社局長兼造神宮副内閣	
	使内務監察官	
	叙高等官二等	
	兼任明治神宮造營局長	
十月五日	大禮使事務官被仰付	大禮使
今年九月三十日	叙勲三等授瑞寶章	賞勲局
今年七月三十日	陞叙高等官一等 本官並内務監察官	内閣
八月三十日	叙從四位	宮内省
十月九日	兼任内務省地方局長	内閣
	叙高等官一等	
今年四月三十日	免本官專任内務省地方局長	
今年十月一日	任社會局長官	
	叙高等官一等	
二月三十日	叙勲二等授瑞寶章	賞勲局
履歴用紙		
内務省		
九月五日	任内務次官	内閣
	叙高等官一等	
今年九月九日	依願免本官	
今年三月三十日	授旭日重光章 臨時財政經濟調査會内	
六月二日	任法制局長官	
	叙高等官一等	
八月二日	任内閣書記官長	
今年一月三十日	貴族院令第一條第四号ニ依リ貴族院	
	議員ニ任ス	
二月十五日	叙正四位	
二月十五日	叙勲一等授瑞寶章 (任財政整理、税制整理、肉税率一般、 整、衆議院議員選挙法改正、功)	
昭和三年四月三十日	依願免本官	
九月二日	特旨ヲ以テ位一級被追	
	叙從三位	

(東京 800)

六年一月十日 任 關東長官
 七年一月十日 授 旭日大授章
 九年四月二十九日 授 旭日大授章
 十年四月二十九日 授 旭日大授章
 昭和六年乃至九年 事変ノ功
 支那事変ノ功

履歴用紙

内務省

(東京 800)

本籍地府縣	生年月日	現住所	年號	明治	氏名	官職	備考
兵庫縣	明治五年十一月五日	兵庫縣掛保郡御津村朝臣	任	七	坂本清治	東京帝國大學法科大學法律學科卒業	
目黒區清水町四七二番地齋藤方	任	免	賞	罰	其他	應名	
東京府	七	二二	任	七	東京府	東京府	
文官高等試驗合格	一	二	任	七	東京府	東京府	
任內務屬	三六	二五	任	七	東京府	東京府	
任福井縣參事官	一	五	任	七	東京府	東京府	
敘高等官七等	三七	一〇	任	七	東京府	東京府	
敘從七位	三八	二	任	七	東京府	東京府	
任神奈川縣參事官	四	一九	任	七	東京府	東京府	
敘高等官七等	(廢官)		任	七	東京府	東京府	
任神奈川縣事務官			任	七	東京府	東京府	
敘高等官七等			任	七	東京府	東京府	
補第二部長			任	七	東京府	東京府	
任神奈川縣事務官			任	七	東京府	東京府	
敘正七位			任	七	東京府	東京府	
敘高等官六等			任	七	東京府	東京府	
補第四部長			任	七	東京府	東京府	
補警察部長			任	七	東京府	東京府	
敘勳六等授單光旭日章			任	七	東京府	東京府	
任神奈川縣事務官			任	七	東京府	東京府	
敘高等官六等			任	七	東京府	東京府	
補警察部長			任	七	東京府	東京府	
敘高等官五等			任	七	東京府	東京府	
任內務省參事官			任	七	東京府	東京府	

貴族院

八	二〇	敘正五位	
八	二八	敘勳四等授瑞寶章	
一〇	四	任内務省神社局長兼造神宮副使	
		内務監察官	
		敘高等官二等	内閣
		兼任明治神宮造營局長	同
一〇	五	大禮使事務官被仰付	同
		典儀部勤務ヲ命ス	大禮使
一〇	八	明治神宮造營局評議委員被免	内閣
一〇	一一	神宮會計審査委員ヲ命ス	内務省
		神職高等試験委員ヲ命ス	同
		神職尋常試験委員ヲ命ス	同
五	一	銀杯一組ヲ賜フ（大禮行賞）	
一	二一	（廢大禮使官制）	
三	二〇	古社寺保存會委員被仰付 十、五、十同上被免	内閣
貴族院			
五	一三	神宮皇學館評議委員ヲ命ス	内務省
一二	二五	内務省所管事務政府委員被仰付	内閣
六	二二	内務省所管事務政府委員被仰付	同
一二	二五	内務省所管事務政府委員被仰付	同
七	二五	内務省所管事務政府委員被仰付	同
八	三〇	敘勳三等授瑞寶章	
一〇	九	史蹟名勝天然紀念物調査會委員被仰付	同
一二	二四	内務省所管事務政府委員被仰付	同
九	七	陸高等官一等（本官並内務監察官）	同
六	三〇	内務省所管事務政府委員被仰付	同
八	三〇	敘從四位	
一〇	九	兼任内務省地方局長	
		敘高等官一等	同
一〇	一一	道路會議々員被仰付	同
一〇	一四	臨時財政經濟調査會幹事被仰付	同

（第 47 頁）

一二	二五	内務省所管事務政府委員被仰付	内閣
一二	二七	内務次官堀田貢病氣中次官代理ヲ命ス	内務省
二	一三	馬政委員會委員被免	内閣
四	二四	内務次官堀田貢出勤ニ付キ内務次官代理ヲ免ス	内務省
五	二九	小作制度調査會委員被仰付	内閣
九	五	任内務次官	
		紋高等官一等	同
九	一九	帝都復興審議會幹事被仰付	同
九	二九	港灣調査會委員被仰付	同
一〇	一三	臨時法制審議會委員被仰付	同
		史蹟名勝天然記念物調査會委員被仰付	同
		臨時大都市制度調査會委員被仰付	同
		神社調査會委員被仰付	同
一〇	一六	保健衛生調査會委員被仰付	同
		都市計畫中央委員會委員被仰付	同
貴族院			
一〇	一八	帝都復興院參與被仰付	同
一〇	二三	中央衛生會委員被免	同
一〇	二五	臨時條約改正調査委員會委員被仰付	同
一一	二	小作制度調査會委員被免	同
一一	五	國有財産調査會委員被仰付	同
一一	二二	文官高等懲戒委員被仰付	同
一一	三〇	臨時震災救護事務局參與被仰付	同
一二	一〇	内務省所管事務政府委員被仰付	同
一二	一一	勞働保險調査會委員被免	同
一二	一七	鐵道會議々員被仰付	同
一二	二五	内務省所管事務政府委員被仰付	同
一三	一九	依願免本官	同
一	二五	依願臨時法制審議會委員被免	同
二	二〇	明治神宮造營局評議委員被免	同
		明治神宮造營局參與被免	同

(第400頁)

四	二	帝國經濟會議々員被仰付	内閣
一三	四	（勅令第九十號ニ依リ臨時治水調査會廢止）	
五	三一	授旭日重光章	
六	一一	任法制局長官	
		敘高等官一等	内閣
六	一九	帝室制度審議會委員被仰付	宮内省
六	二六	臨時法制審議會委員被仰付	内閣
		臨時法制審議會幹事被仰付	同
		特別都市計畫委員會委員被仰付	同
六	二七	政府委員被仰付	同
六	二八	臨時條約改正調査委員會委員被仰付	同
七	一	都市計畫中央委員會委員被仰付	同
七	七	文官高等懲戒委員被仰付	同
七	一七	明治神宮造營局評議委員會評議委員被仰付	同
七	一八	簡易生命保險積立金運用委員會委員被仰付	同
貴族院			
八	二八	中央統計委員會委員被仰付	同
九	三〇	國有財産調査會委員被仰付	同
一一	二五	（勅令第二八一號ニヨリ臨時條約改正調査委員會官制廢止ニヨリ同委員ハ消滅）	
		（勅令第二八〇號ニヨリ帝國經濟會議官制廢止ニヨリ議員ハ消滅）	
一二	二	文政審議會委員被仰付	内閣
一二	二〇	（勅令第三二一號ニ依リ明治神宮造營局評議委員ハ消滅）	
		政府委員被仰付	同
一四	三〇	政府委員被免	内閣
五	九	行政調査會幹事被仰付（官報不登載）	同
		行政調査會幹事長被仰付	同
五	五	行政調査會委員被仰付	同
五	二三	日本無線電信株式會社設立委員被仰付	内閣

（續表159）

昭和元	二	一	貴族院
八	二	任内閣書記官長	
		敍高等官一等	
		賞勳局總裁事務取扱ヲ命ス	内閣
八	二一	中央統計委員會委員被仰付	同
九	一六	賞勳局總裁事務取扱ヲ免ス	同
九	三〇	對支文化事業調査會委員被仰付	同
一〇	七	特別都市計畫委員會委員被仰付	同
		依願帝室制度審議會委員被免	宮内省
一〇	二三	中央諸官衙建築準備委員會委員被仰付	内閣
一二	三	文政審議會委員被仰付	同
一二	一六	鐵道會議議員被仰付	同
一二	二五	政府委員被仰付	同
一五	一	貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	同
二	一五	敍正四位	宮内省
七	一二	敍勳一等授瑞寶章	賞勳局
昭和元	二	一	
		佛蘭西國政府ヨリ贈與シタル「グラン・クロアドラゴン ド・ランナン」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルコトヲ允許セ ラル	
二	四	二〇	依願免本官
五	二	二	敍從三位
			特旨ヲ以テ位一級被進
五	二	二四	依願臨時法制審議會委員被免
三	一一	一〇	金杯一箇ヲ賜フ
四	七	一九	社會政策審議會委員被仰付
三	一一	一〇	昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニヨリ大禮記念章ヲ授 與セラル
五	四	二六	失業防止委員會委員被仰付（消滅）
六	五	一	昭和五年勅令第百四十八號ノ旨ニ依リ帝都復興記念章 ヲ授與セラル
			任關東長官
			賞勳局
			内閣

一五	四	二九	支那事變ニ於ケル功ニ依リ銀杯壹組ヲ賜フ	賞勳局
一六	一二	九	領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル(二一三一五〇號)	
一八	五	一四	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國神廟創建記念章ヲ受	内閣
			國家總動員會議會委員被仰付	賞勳局
一五	八	一五	年祝典記念章ヲ授與セラル	内閣
一六	五	一四	昭和十五年勅令第四百八十八號ノ旨ニ依リ紀元二千六百	賞勳局
一五	一二	一六	國家總動員會議會委員被仰付	内閣
一三	六	一〇	神宮皇學館大學評議委員會委員ヲ囑託ス	文部省
			議會制度審議會委員被仰付(昭和十五年五月廿一日廢止)	同
一一	七	一五	神宮關係施設調査會委員被仰付(昭和十四年五月五日廢止)	内閣
九	二	二二	宗敎制度調査會委員被仰付(昭和十五年四月一日廢止)	内閣
			法制審議會臨時委員被免	内閣
一〇	九	二一	章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セラル	賞勳局
九	四	二九	授ケ賜フ	賞勳局
			滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル滿洲帝國皇帝訪日記念	
			章ヲ授與セラル	賞勳局
			昭和六年乃至九年事變從軍記念章令ノ旨ニ依リ從軍記	賞勳局
			章ヲ授與セラル	賞勳局
			比佩用スルヲ允許セラル	賞勳局
九	三	一	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及	同
八	八	四	土木會議議員被仰付	内閣
			神社制度調査會委員被仰付	賞勳局
			勞働調査記念章ヲ授與セラル	賞勳局
一〇	一	一	昭和七年勅令第四百十五號ノ旨ニ依リ朝鮮昭和五年國	同
七	一	一	法制審議會臨時委員被仰付	同
			依願免本官	同
			(依願失業防止委員會委員被免)	同
			依願神社制度調査會委員被免	内閣

貴族院

めくれず

裏面白紙

一七九六

一 切 漢 字 係 本 書 法

右 特 旨 ヲ 以 テ 敍 位 相 成 候 ニ 付 位 記 竝 辭 令 及 回 送 候
條 傳 達 方 御 取 計 有 之 度 候 也

昭和二十年 八月六日

宗秩寮總裁子爵 松平慶民

内務省記名



二號昇紙

153

宮内省